



Rally challenge

ラリー講習会
テキスト

- ① はじめに——「ラリー」とは？…………… 4**
「ラリー」ってどんなモータースポーツ？
- ② TRDラリーチャレンジってどんなラリー？…… 6**
世界で行われているラリーの種類
- ③ ラリーに参戦するための準備…………… 8**
TRDラリーチャレンジ参戦の事前準備
- ④ ラリー参戦に必要な知識…………… 12**
これさえ分かればラリーはできる！
- ⑤ これだけは覚えてほしい安全のための知識…… 26**
こういう時、どうすればいい？
- ⑥ TRDラリーチャレンジに参加するには？…… 29**
TRDラリーチャレンジ申込方法、事務局連絡先

① はじめに——「ラリー」とは？

ラリーはレースと異なり一般公道で行われるため、世界中の様々な地域で開催できる点が大きな特徴です。

① ラリーの起源

ラリー“rally”という言葉は“呼び集める”“再び集まる”という意味を持ち、その起源は中世にまでさかのぼります。当時、領主の元へ各地から騎士が集結したのがラリーの始まりとされ、世界初の自動車ラリーであるラリーモンテカルロ(1911年～)は、文字どおりヨーロッパの各都市からモナコへとラリーカーが集結するイベントでした。

② ラリーの種類

ラリーは、サーキットのように限られた場所で争うモータースポーツと異なり、一般公道を使用し、いろいろな路面環境のなかでテクニックと速さを競うモータースポーツです。ラリーには様々な形式がありますが、現在は世界ラリー選手権(WRC)で採用されている、決められた区間で1台ずつタイムアタックを行い、その積算で順位が決まる「SSラリー」が一般的です。

またラリーは路面の違いによって、未舗装路で行われる「グラベルラリー」、舗装路で行われる「ターマックラリー」、雪路で行われる「スノーラリー」と大きく3つに分けられます。グラベルとターマックの両方の路面を使うラリーを「ミックスラリー」と言います。

③ ラリーはふたりで行う競技

ラリーの大きな特徴として、ドライバーとコ・ドライバーがペアで参加するモータースポーツであることが挙げられます。助手席に乗るコ・ドライバーはコースのナビゲーションが主な仕事で、SSではより高度にコースや走行を指示するペースノートを読み上げる役割を担います。それ以外にもスケジュール管理などを行ない、ドライバーをサポートします。ラリーはレースと違い、1台ずつのタイムアタックのため、自分のペースで走ることができます。また、スタートの待ち時間にステージ攻略などを選手同士で情報交換するのもラリーならではの風景です。さらにTRDラリーチャレンジでは、家族や友人が応援に訪れたり、和気あいあいとした雰囲気の中で1日を楽しむことができます。

④ ラリー車両

ラリーで使用する車両はすべて量産車をベースとしています。競技の格式やカテゴリーで改造可能な範囲は異なりますが、最高峰であるWRCでも私たちが街で見かける市販車をベースにしています。

ラリーの主な歴史

1911年……世界初の自動車ラリー、モンテカルロ(モナコ)初開催

1932年……RACラリー(イギリス)初開催

1953年……サファリラリー(アフリカ)初開催

1973年……FIA世界ラリー選手権創設

1977年……FIA世界ラリードライバーズ選手権創設

1980年……JAF全日本ラリー選手権創設

2002年……TRDヴィッツチャレンジ創設

2012年……TRDラリーチャレンジに名称変更



ラリーの競技内容別分類

種類	概要	主な競技
スペシャルステージ (SS) ラリー ※	道路を占有したスペシャルステージを何力所か走行し、フィニッシュ時にそのSSタイムの合計が少ない選手が勝利となるラリー。	WRC APRCなどのスプリント系ラリー 全日本ラリー TRDラリーチャレンジ
アベレージラリー ※ (リライアビリティラン)	指定区間を決まった時間で走行し、所要時間の正確さを競うラリー。減点が少ない選手が勝利となる。アベレージ走行のみの第1種と、一部にSS区間を設けた第2種がある。	茨城栃木デイルリースeries JMRC近畿アベレージラリーシリーズ
ラリーレイド (クロスカントリーラリー)	主催者から与えられるロードブックをたよりに、走行ルートを選びながら長距離を走破するラリー。過酷な環境のため、ベース車両はSUVなどの4WDが用いられることが多い。	ダカールラリー アジアクロスカントリーラリー クロスカントリーバハ
ラリークロス (スピード行事)	短いサーキットを使用して複数のマシンが同時に走行するレース形式の競技。厳密にはラリーとはルールが異なる。2014年からFIA世界ラリークロス選手権が開始。	WorldRX グローバルラリークロス選手権

※JAF国内競技規則2-14 (1) 第1類ラリー

ラリーの路面の違い



●グラベル (未舗装路)

砂利等で構成された路面。グリップレベルが低く、地域や気候によって様々に変化する。



●ターマック (舗装路)

アスファルトやコンクリート等で舗装された路面。グリップレベルが高い。一般公道を使用したステージも設定される。



●スノー (雪路)

グラベルやターマック上に氷や雪が積もった路面の他、湖面に張った氷の上を走るステージも設定される。グリップレベルが極めて低く、車両のコントロールが難しい。

② TRDラリーチャレンジってどんなラリー？

TRDラリーチャレンジはWRCと同じSSラリー方式を採用し、国際ラリーへのステップアップも可能な入門者から上級者まで楽しめるラリーシリーズです。

①世界のラリー

世界のラリーはFIA世界ラリー選手権(WRC)を頂点として、FIAが管轄する世界各地のFIAリージョナル(地域)ラリー選手権、各国選手権といったピラミッドが形成されています。頂点である

WRCでは自動車メーカーによるワークスチームが世界タイトルを懸けて激しい戦いを繰り広げています。

ラリーはF1などのサーキットレースと異なり、最高峰のWRCにもプライベーターによる参戦が可能となっています。様々なレベルの参加者が自分に合ったラリーを選んで楽しめるのもラリーの特徴と言えるでしょう。

FIAリージョナル(地域)ラリー選手権は世界6地域で開催されています。そのうち日本はアジア・パシフィックラリー選手権(APRC)に属しており、2015年現在は北海道の帯広市を中心に開催されるAPRCラリー北海道が組み込まれています。



②日本のラリー

日本のラリーは、JAF全日本ラリー選手権を頂点として、全国5地域でJAF地方ラリー選手権が開催されています。さらに都道府県や、地域をまたいで実施されているシリーズ戦などもあります。

近年、全日本ラリーはギャラリーステージやイベント会場を設置し、観客も楽しめる要素を積極的に取り入れ、参加者だけでなく地域やファンをも取り込んで大きな盛り上がりを見せています。また、全日本ラリー選手権各クラスの6位までは年末に開催されるJAF表彰式に招待されます。

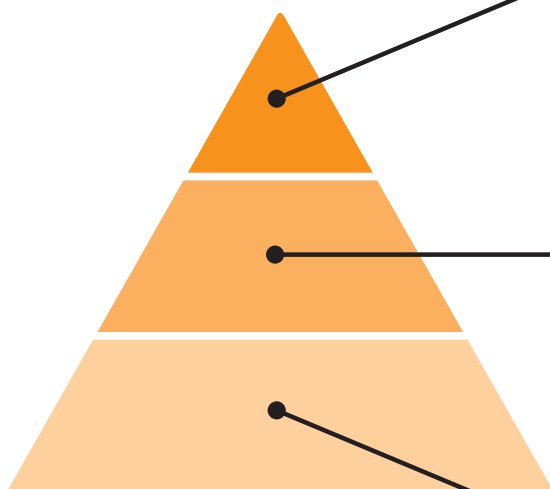
③TRDラリーチャレンジ

TRDラリーチャレンジは、2001年から本格的にスタートした比較的新しいラリーシリーズです。当初はTRDヴィッツチャレンジというヴィッツによるワンメイクラリーでしたが、ヴィッツのモデルチェンジを機に参戦車両やクラス区分も変更されました。2012年からは「TRDラリーチャレンジ」と名称を変更し、ヴィッツや86、すべてのトヨタ車のほか、他メーカーのクルマも参戦可能にするなど、より多くの人が参戦しやすくなっています。

開催地域も拡大しており、参加者も初心者中心から全日本レベルの実力者や往年の名ドライバー、レーシングドライバーらのスポット参戦も増え、注目を浴びているラリーイベントです。

また、TRDラリーチャレンジで培った経験は、同じSSラリー形式で行われている全日本ラリーやWRCでも活かすことができるのが大きな魅力のひとつです。

世界のラリー



FIAが管轄するラリーはWRCを頂点としてリージョナル(地域)選手権、ナショナル(各国)選手権となっている。ただし各国選手権は国ごとのASNが実施するものでFIAは直接関与していない。



WRC FIA世界ラリー選手権

国際Rライセンス以上



FIAリージョナル ラリー選手権

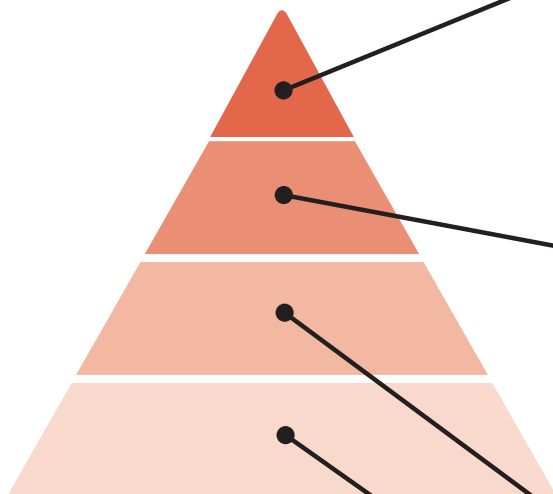
(アジア・パシフィック/ヨーロッパ/
アフリカ/中東/南米/中南米)
国際Rライセンス以上



各国ナショナル (ローカル)選手権

国内Bライセンス以上(日本の場合)

日本国内のラリー



JAF 全日本ラリー選手権

国内Bライセンス以上



JAF 地方ラリー選手権

北海道/東日本(東北+関東)/
中部・近畿/中四国(中国+四国)/九州
国内Bライセンス以上



都道府県 ラリー選手権

国内Bライセンス以上

TRD ラリーチャレンジ

国内Bライセンス以上

TRDラリーチャレンジは個々の経験を問わず、あらゆるレベルの選手に門戸を開き、初心者から上級者まで幅広く楽しめるラリーという位置づけ。



ジュニア選手権/ その他参加型ラリー

国内Bライセンス以上
※クロズドクラスはライセンス不要

③ ラリーに参戦するための準備

TRDラリーチャレンジに出場するためには事前に競技ライセンスを取得し、クルーの装備や参戦車両を準備する必要があります。

①国内Bライセンスを取得する

ライセンスはJAFが定める公認競技に出場する際に必要なものです。TRDラリーチャレンジはJAF公認競技のため、参戦するには国内Bライセンス以上が必要となります。国内Bライセンスを持っていれば、TRDラリーチャレンジをはじめ全日本選手権まで、国内で開催されるほとんどのラリーに参戦可能です。

国内Bライセンスは毎月各地のJAF公認クラブや加盟クラブが開催しているライセンス講習会、TRD主催の国内Bライセンス講習会などを受けることで取得できます。講習会を受講すれば、晴れてあなたも国内Bライセンス所持者です。

4輪自動車競技用ライセンスの種類

分類	ライセンスの種類	主な参戦可能競技
国際	スーパーライセンス	F1
	Aライセンス	GP2シリーズ、INDYCARシリーズなど
	Bライセンス	Super Formula、ル・マン24時間など
	Cライセンス	国際格式のオートクロス、一部の国際レース
	Rライセンス	WRC、APRC、ダカールラリーなどの国際ラリー
	ドラッグライセンス	国際格式のドラッグレース
国内	ソーラーカーライセンス	ソーラーカーレース鈴鹿など
	Aライセンス	国内格式レース
	Bライセンス	国内格式ラリー、ジムカーナ、ダートトライアル、サーキットトライアルなど

国内Bライセンス講習は全国各地で行われている

ライセンス講習会の日程はJAFのホームページで確認でき、最寄りの地域や時間帯の講習会が選べます。

国内ラリーに出場するためのBライセンスは講習を聴くだけで取得可能です。取得にあたってはJAFの会員登録(すでに会員になっている場合は不要)と、ライセンス取得のための費用がかかります。なお、ライセンスは毎年更新料が必要で、12月31日でその年のライセンスは失効となります。忘れずに更新しましょう。



②ドライバー/コ・ドライバーの装備品を揃える

モータースポーツでは、乗員を守るための安全装備が必須です。ラリーの場合は頭部を守るためのヘルメットをはじめ、レーシングスーツ、レーシンググローブ、レーシングシューズなどが必須装備とされています。

レーシングスーツやレーシンググローブなど身につけるものはFIA公認が望ましく、事故の際にドライバーを救出しやすいようにショルダー部にベルトが装着されていたり、燃えにくい不燃性繊維を使用しているなど、安全性に配慮した仕様となっています。

ラリー競技は危険を伴うため、安全に配慮した準備はとても重要です。安全にラリーを楽しむために万全の準備を心がけてください。

TRDラリーチャレンジで必要なドライバー/コ・ドライバーの装備



ヘルメット

最新のJAF国内競技車両規則第4編付則「ラリー競技に参加するクルーの装備品に関する付則」に従うこと。製造より10年以上経過したものは使用できない。



レーシングスーツ/グローブ/シューズ

最新のJAF国内競技車両規則第4編付則「ラリー競技に参加するクルーの装備品に関する付則」に従ったものを推奨。スーツは義務づけ。グローブとシューズは推奨だが、装備するのがベスト。

①競技車両を用意する

ラリー競技車両は一般公道を走行することからすべてナンバー付きの車両となります。TRDラリーチャレンジでは、クラスごとに改造範囲が細かく分類されています。ベースとなる車両は、ヴィッツや86などのトヨタ車だけでなく、他メーカーのクルマも参戦可能です。クラス区分は、車種や排気量、年式などが異なるクルマ同士が競技を楽しめるように設定されています。もし規定に反する改造を行った場合は、ラリー前の車検によって失格になってしまう可能性もありますので、部品交換時などは注意が必要です。

クラス区分や参戦可能な車種などについては「TRDラリーチャレンジ 競技・車両規則書」、使用可能な部品については「TRDラリーチャレンジ／使用可能パーツ一覧」、さらに「特別規則書」に記載されています。

②ラリー競技車両に必要な安全装備を搭載する

ラリーでは競技中にアクシデントで壁などに衝突したり、車両が横転することもあるかもしれません。そんな時、ドライバー／コ・ドライバーの安全を確保し、被害を最小限に止めるために車両の安全装備は欠かせません。6点式＋サイドバー以上のロールケージ、4点式以上のシートベルトは規定された必須装備となっています。また、ラリー競技車両に搭載しておくべき安全装備品として、消火器、三角反射表示板、非常用信号灯、牽引ロープ、救急薬品などが規定されています。緊急時に必要な「OK」「SOS」マークは取り出しやすい位置に、確実に固定しておく必要があります。詳しくは「TRDラリーチャレンジ 競技・車両規則書」を参照してください。

③事前に車両の点検・整備を行う

ラリーでは車両の各部に大きな負荷がかかります。そのため、ラリー終了後もしくは次のラリー参戦前には、車両各部の増締めやオイル類の点検・交換などが必要です。

点検・整備は車両のメンテナンスを依頼しているラリーショップのほか、簡単な作業であれば選手自身が行うことも可能です。

また、トヨタ車であればトヨタ販売店が用意している車両の診断メニュー「トヨタ プロケア10（トヨタ店・トヨペット店、カローラ店）」や「あんしん10検（ネット店）」が活用できます。トヨタオリジナルの点検項目として、①ブレーキ ②オイル・液類 ③室内 ④バッテリー ⑤ワイパー ⑥ベルト類 ⑦ライト類 ⑧タイヤ ⑨エンジン ⑩下回りという10項目を点検します。場合によっては、経年損耗部位やブレーキパッドなどの消耗が見つかることもあります。安全はもちろんのこと、競技車両に起因する競技中のトラブルやアクシデントを防ぐことも良い成績を残すために重要なポイントです。

競技当日に行われる車両検査（車検）では、オイル漏れなどの安全面のほか、規定外のパーツが使われていないかのチェック、灯火類やシートベルトなどの安全装備の点検が行われます。いずれかひとつでも基準を満たさない車両は出走できませんのでご注意ください。

ラリーベース車両の種類

- ナンバー付きの一般市販車がベース
- 「JAF国内競技車両規則」のラリー車両に従ったラリーカー(RJ/RN/RF車両)
- 「TRDラリーチャレンジシリーズ車両規定」により、車種に応じて認定部品などで改造範囲を制限し、イコールコンディションに近い戦いができるようにしている



TRDラリーチャレンジで義務づけされている安全装備品

- | | |
|----------------------|--------------------------------|
| ●ロールケージ(6点式+サイドバー以上) | ●赤色灯 |
| ●シートベルト(4点式以上) | ●牽引ロープ |
| ●内容量2kg以上の化学消火器 | ●救急薬品など |
| ●三角反射表示板(2枚) | ●「OK」(緑色)「SOS」(赤色)A3サイズボード(2枚) |
| ●非常用信号灯 | ※OK/SOSボードは、初参加車のみ事務局から支給されます |

事前整備

- 基本点検
 - ・各部の増し締め
 - ・油脂の漏れ点検および交換
 - ・水漏れ点検および交換
- 始業前点検など
- 灯火類点検
- 安全装備点検



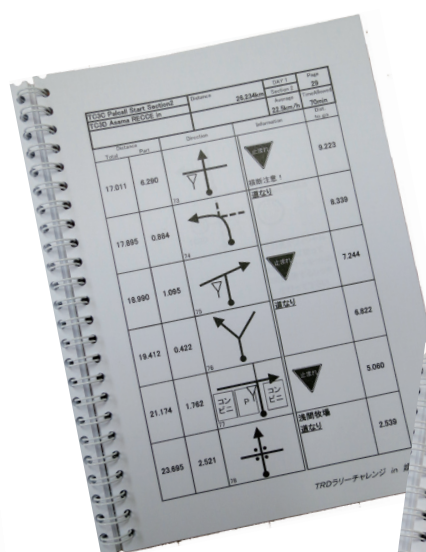
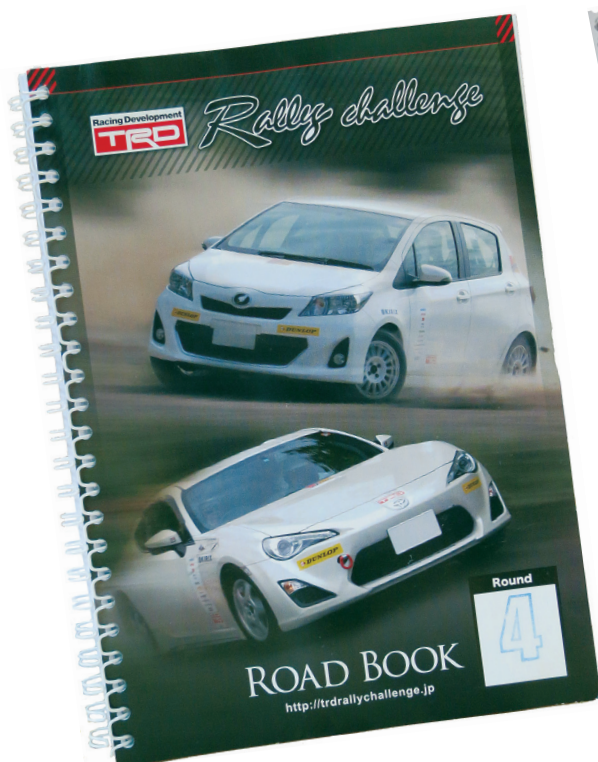
④ ラリー参戦に必要な知識

TRDラリーチャレンジに出場するためには、ロードブックに記載されている内容を理解することが不可欠です。その読み方をご紹介します。

① ラリーの重要なことが書かれている「ロードブック」

ラリーに絶対に必要なものが「ロードブック」です。ロードブックには、ラリーに関する重要なことが書かれています。競技中のアイテナリー、リエゾン(SS間の移動)やSSの順路を示した略式図(通称:コマ図)などが含まれています。選手はこのコマ図に従って走行することで、初めて走るルートでも完走することができます。なお、このコマ図の表記方法は基本的に万国共通です。

ロードブックには、アイテナリー、コマ図のほか、リタイア時に提出する「リタイア届け」や、CROに問い合わせを行うことができる「エンクワイアリーシート」なども綴じ込まれている。



②ラリーのスケジュール

ラリーの1日の流れを知るためには、特別規則書のラリースケジュールを確認することがもっとも便利です。「レッキ(レキ)」はコースの下見のこと。ラリーでは本番前に必ず安全確認のためSSの下見を行い、SSラリーでは「ペースノート」を作ります。これは、SSの道の形状や路面状態などを、ドライバーがすべて数字と記号で表し、それをコ・ドライバーが聞いて書き記したものです。ラリー本番でSSを走る際には、コ・ドライバーがそれを読むことによってドライバーがあらかじめ道の形状や走行方法をイメージできるようになります。

続いて、ラリーに出場するための「参加確認／受付」を行います。申し込み後に送られてくる参加受理書、免許証、競技ライセンスなどを確認した後ゼッケンが渡され、それを車両の規定位置に貼ります。

続いて、「車両検査(車検)」を行います。一般道を走行するうえで必要な灯火類の点検から、安全装備を中心としたチェックなどが行われます。無事に車検に合格すると「JAF公認ラリー競技会之証」が交付されるので、競技車両の規定位置にしっかり貼っておきましょう。

競技開始前には「ドライバースブリーフィング」が行われます。ここでは、コマ図の更新やコース上の注意すべき場所の情報などが主催者から伝達されます。競技者はこのドライバースブリーフィングに必ず参加しなければなりません。

このようなスケジュールを経て、いよいよラリーがスタート。SSやリエゾンを行き、セクションごとにサービスが設けられています。サービスではマシンの整備などを決められた時間内で行い、次のセクション走行へ。すべての走行が終わり、パルクフェルメINのTCに入ったらラリーはフィニッシュです。

ラリースケジュール(例)

 TRD Rally Challenge 2014 Round.3 In MEGA WEB 開催日：2014年6月29日(日)		
開始時間(先頭車時刻)	TC	場所
07時00分～08時00分	レッキ(コース下見)	メガウエブスタート
08時00分～08時30分	参加受付①	メガウエブ
08時00分～08時30分	車両検査②	メガウエブ
09時00分	ドライバースブリーフィング③	メガウエブ3F会議室
10時00分	ラリースタート④	メガウエブ
10時10分	SS1	国際展示場
10時20分	リググループIN(再集合)	フジテレビジョン
10時30分	リググループOUT	フジテレビジョン
10時38分	SS2	メガウエブ
10時45分	ラリーフィニッシュ	メガウエブ
～	パルクフェルメ(車両保管)	メガウエブ
12時00分～12時30分	表彰式	メガウエブ3F会議室

①参加受付

参加受理書、免許証、競技ライセンスを持参。ゼッケンなどを受け取る。

②車検

車検証を忘れずに！ TRDラリーチャレンジでは車検後「JAF公認ラリー競技会之証」が配布されます。

③ドライバースブリーフィング

筆記具とロードブック持参。競技の注意点、特にコースの注意箇所の説明があるので、よく聞いておくこと。

④ラリースタート

元気よく、交通法規を遵守して気をつけていってらっしゃい！

③ アイテナリー

アイテナリーはラリーの競技進行を分刻みで記した行程表です。ここにはTC／SSの間の距離と所要時間が書かれています。記載されている時刻は1号車の到着時刻で、2号車以降は1号車の時間＋走行順に応じて1分ずつ追加した時間となります。書式は世界共通のため、各国のSSラリーでも同様のものが使われています。

SSラリーの工程は、「リエゾン」と「SS＝スペシャルステージ」に分かれています。TCでタイムカードをオフィシャルに渡して時刻を記録してもらい、SSでは自分のスタートタイムになったら走り始めます。ここで規定の時間よりも早くスタートしたり、スタートが遅れた場合はペナルティの対象となります。

走行後の車両のメンテナンスやセッティング変更を行える「サービス」が設けられていることもあります。一般的な2デイ以上のラリーでは走行距離やとり回しにより設けられますが、それぞれ与えられている時間が異なるため、すべての項目を修理したりセッティングを見直すことはできません。優先順位を見極めることもラリーを戦ううえでの戦略となります。

また、ラリーの距離や状況に合わせて「リフューエル」や「リググループ」が設けられることもあります。リフューエルは公式に認められた燃料補給のための時間、リググループはリタイヤや遅延などでラリー中に変わってしまった走行の間隔や順番を調整するために設けられています。

TRDラリーチャレンジのアイテナリー(例)



アイテナリー

① TC ② SS	Location ③	場所	④ SS dist. SS距離	⑤ Liaison dist. リエゾン距離	⑥ Total dist. 総移動距離	⑦ Target time 基準所要時間	⑧ First car due 1号車時刻
TC0	Start - Mega Web	スタート - メガウェブ	—	—	—	—	10:00
TC1	Kokusai tenji jyo	国際展示場	—	3.10	3.10	0:07	10:07
SS1	KOKUSAI TENJI JYO SS	国際展示場SS	2.60	—	—	—	10:10
⑩ TC1A	Fuji television Regroup IN	フジテレビジョンリグループIN	—	2.10	4.70	0:10	⑨ 10:20
	Regroup					0:10	
TC1B	Fuji television Regroup OUT/ Service IN	フジテレビジョンリグループOUT/ サービスA IN					10:30
⑪	Service A (Fuji television)	サービスA (フジテレビジョン)	—	—	—	0:20	
TC1C	Service A OUT	サービスA OUT					10:50
TC2	Mega Web	メガウェブ	—	0.88	0.88	0:05	10:55
SS2	MEGA WEB SS	メガウェブSS	0.50	—	—	—	10:58
TC2A	Mega Web Parc Ferme IN	メガウェブパルクフェルメIN	—	0.30	0.80	0:07	11:05
	Rally Finish	ラリーフィニッシュ					11:15
⑫	TOTAL		3.10	6.38	9.48		

※TC2Aは目標時刻より前にチェックインできる。

①TC (タイムコントロール)

競技車の通過時刻をチェックするポイント。ラリーの競技はすべてTCで管理され、規定時刻にTCを通過、記録を受けないとペナルティの対象となる。

②SS (スペシャルステージ)

ラリーの競技区間のこと。すべてのSSの積算タイムが最も速いドライバーが優勝となる。

③Location (場所)

SSにはそれぞれ地域や特徴を表す名称がつけられていることが多い。後ろの数字は2回以上走行する場合の回数を表す。順走逆走を示す「UP/DOWN」や同じSSで距離が異なる「SHORT/LONG」といった表現もある。

④SS Dist. (SS距離)

SSの距離。

⑤Liaison Dist. (リエゾン距離)

TCとTC、TCとSSの間にあるリエゾン区間の距離。

⑥Total Dist. (総走行距離)

SSとリエゾンを合計した距離。

⑦Target Time (基準所要時間)

SSとリエゾンの合計距離を走行する際の目標時間。

⑧First Car Due (1号車通過時刻)

1号車が通過する時刻。2号車以降の時刻は、このタイム+1分が通過時刻となる。この時間にそのTCを通過、記録を受ける。

⑨SS Dist./Liaison Dist./Total Dist./Target Time

SS1からTC1Aを例とすると、SS距離2.60km+リエゾン距離2.10km=合計4.70kmの目標時間が10分間。1号車は10:20にTC1Aに入らなければならない。

⑩リフューエル/リグループなど

TCとTCの間に置かれるのが、リフューエル(給油)やリグループ。リグループはリタイヤや遅延などで競技車の走行間隔に狂いが生じた場合に、間隔を詰めて調節すること。サービスの前後などに設けられることが多い。

⑪サービス

ラリーカーを整備する場所。TRDラリーチャレンジでは40～60分間の昼のサービスがある。サービスのターゲットタイムは、TCインからアウトまでの時間を指すので、実際の作業時間はもっと短くなることに注意。

⑫Rally Totals (ラリー合計)

左からスタートしてから、ゴールに戻るまでのSS総走行距離、リエゾン総走行距離、合計走行距離を表す。

4 コマ図 (リエゾン)

アイテナリーはラリー競技の進行予定時間を案内するためのものですが、移動する場所については地名などの名称しか書かれていません。そこで必要になるのがロードブックに含まれている「コマ図」です。

ラリーはコマ図に従って走行することで進行します。コマ図で表されるのは、道の状況や目印と、その図までの距離のみです。

●コマ図の読み上げ方

リエゾンでもSSでも、ドライバーは運転していますので、コ・ドライバーがコマ図に記載されている内容を読み上げ、ドライバーに情報を与える必要があります。

コマ図の読み方は自由ですが、よく使われる読み方の代表例があります。経験者などに聞きながら、ドライバーに正確に伝わる読み方を身につけることが必要です。

また、コマ図に略式で記載されている標識や目標物は、「Information」に分かりやすいように大きく書かれます。

●その他のコマ図に含まれる情報

コマ図にはそのほかにも色々な情報が入っています。例えば信号機の略図やカーブミラーなど、道路標識や目標物の略図をしっかりと覚えることで、無駄なミスコースを防ぐことができます。

距離の測り方

「Total」と「Part」にはそれぞれ距離が記載されています。「Total」はスタート地点からそのコマ図までの距離を表します。「Part」は手前のコマ図からの距離を表します。右端の「Distance To Go」は次のTCまでの残りの距離です。

距離計測はクルマに標準で備わっているトリップメーターでも利用可能ですが、TRDラリーチャレンジでは助手席側に1m単位まで計測できるラリーコンピュータなどを取付けることが一般的です。トリップメーターがふたつある場合は、ひとつを「Total」、ひとつを「Part」にすると、全体の流れがよく分かります。

トリップメーターの計測地点＝リセットする位置は、ドライバーズブリーフィングで必ず確認してください。原則として「止まれ」の標識や停止線がある場合はその場所、停止線などがない交差点では交差点の中央が一般的な計測地点です。2車線区間は左側の車線をキープするのが基本となります。

TC 0 MEGA WEB 0		Distance		Day	1	Page 1
TC 1 MEGA WEB 1		0.38		Section	1	
		Average		target time		
		11.4		4 2		
						mins
Distance		Distance		Information		Distance To Go
Total	Part					
5 0.00	0.00	1 		TC0 		7 0.38
0.23	6 0.23	2 				0.15
0.28	0.05	3 				0.10
0.33	0.05	4 				0.05
0.38	0.05	5 		TC1 		0.00

①TC

どのTCからどのTCまでかを示す

④Target Time

このコマ図全体の目標走行時間

⑦Distance To Go

次のTCまでの合計距離

②Distance

このコマ図全体の距離

⑤Distance - Total

コマ図のスタートからの合計距離

⑧コマ図

道の状況や進む方向を図で示したもの。●が自転車の位置で、▲が進行方向、点線が計測地点を表す

③Average

このコマ図をターゲットタイムで走行した場合の平均速度

⑥Distance - Part

前のコマ図と現在のコマ図までの距離

⑨Information

左のコマ図の場所にある目印や標識を明示したもの。間違いやすい道などで使われる

⑤ コマ図 (SS)

● SSのコマ図特有の表現

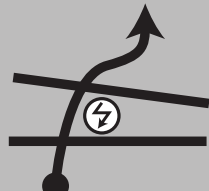
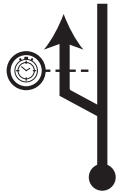
SSのコースもコマ図で表されています。地色が網掛けされたボックスは、その区間がSSであることを示しています。

分岐点がある場所は、どちらの方向に行くかなど進行方向を示し、スタート／フィニッシュなどが書かれています。

路面がグラベルであっても、SS区間のコマ図は実線で示されます。その代わり、SS区間で路面がグラベルのところはボックスの右側が黒く塗りつぶされます。

● 路面の違い

グラベルラリーの場合、コマ図の「Distance」と書かれた進行方向と「Information」と書かれたところの2重線が白の場合は路面が舗装路(ターマック)で、黒の場合は未舗装路(グラベル)という分類になっています。SSの一部がグラベルとなっていることもありますので、注意が必要です。

TC 1 MEGA WEB 1		Distance 0.59 km	Day 1	Page 2
TC 2A MEGA WEB 2			Section 1	
SS1	SS MEGA 1 0.40km	Average 11.8 km/h	Target time 3 mins	
Distance Total Part		Distance	Information	Distance To Go
0.00	0.00	1  Start	1 SS1 SS MEGA 1   0.40	0.59
0.38	0.38	2 	2  Radio 0.02	0.21
0.40	0.02	3 	 0	0.19
0.50	0.10	3 	 	0.09
0.59	0.09		TC2A 	0.00

①グラベル区間

「Distance」と「Information」の間が黒の区間はグラベル路面を表す

②ラジオポイント

SS中に設けられた、選手が走行中かどうか無線で通過確認をおこなう場所。消火器なども常備しており、緊急時対応する。

③SS区間

SS中のルートを示すコマ図には、網掛け状の色が追加される

⑥ラリー中に使われる標識の意味

ラリーに参戦するうえで必ず覚えておかなければならないのが、様々な標識(サイン)です。これらはラリーで通過する各TCやコース上に設置されており、円滑なラリーの進行に不可欠なものです。これらの意味をしっかりと理解しなければ、いくら速く走ることができてもラリーを完走することはできません。標識のデザインは世界共通で、言語や開催国を問わず、すべてのラリーで使われています。

これらはラリーを経験していくことで徐々に覚えていくことになりますが、まずはもっとも重要なスタート／フィニッシュ／ストップの標識は必ず覚えておきましょう。

また、SSやリエゾンを走行する際に使う「ロードブック(コマ図)」にも同様の標識が使われているので、標識を理解することはラリーにおいて欠かせません。

SSで使われる標識



TC(タイムコントロール)予告

この標識からコントロール解除までの間は車両整備禁止です。この標識の先へはTCチェックイン時刻の1分前からしか入れません。



TC(タイムコントロール)

TC予告の約25m先にあるのがTC標識です。直前のTCで指定された時刻に合わせて、この標識を通過し、記録を受けなければならない。



コントロール解除

TC予告標識からコントロール解除標識までの区間をコントロールゾーンといい、この区間では一切の車両整備作業が行えません。



SSのスタート

SSのスタート位置を示す標識です。ここでオフィシャルによるカウントダウンが行われます。自分の時刻が来たらスタートします。



SSフィニッシュ予告

SSフィニッシュの約100m手前に置かれる標識がSSフィニッシュ予告。ここから赤いSTOP標識までは停車禁止なので要注意です。



SSフィニッシュ

この標識までがタイム計測区間ですが、この100～300m先に出てくるSTOP標識までは停止せずに減速しながら進みます。



ストップ

SSフィニッシュ後のSTOP標識が出てきたら停止し、記録を受ける。その後速やかにコントロール解除まで走行します。

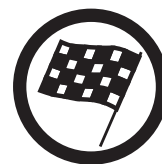
ロードマップ（コマ図）で使われる標識



TC(タイムコントロール)



SSの
スタート



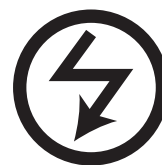
SSの
フライングフィニッシュ



SSのストップ



燃料給油
(リフューエル)エリア



ラジオポイント



サービスパーク



マーキング



確認

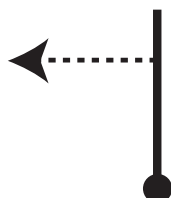
タイヤマーキング・確認



FIV



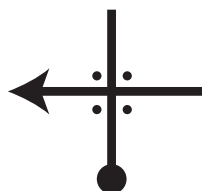
レッカー車



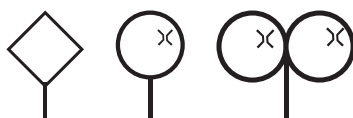
未舗装路
(ダート中は実線にて表示)



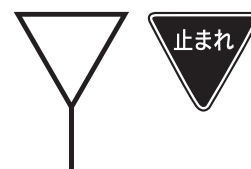
橋



信号機



カーブミラー、
落石注意標識他



一時停止

7 タイムコントロール (TC) の通過方法

SSラリーは、タイムコントロール(TC)と呼ばれる計測場所で、競技車の走行時間を管理しています。その仕組みをご紹介します。

●TC(タイムコントロール)

TCというのは、赤い時計マークが書かれた標識の場所です。この約25m手前には必ず黄色のTC予告標識があります。一般的に、「次のTCに何時何分に入らなければならない」というターゲットタイムにはある程度余裕があり、この黄色標識の手前であれば、停車して時間調整をすることができます。

●コントロールエリア

黄色のTC予告入口標識を越えて、次の黄色地に斜線が入った標識までの間は「コントロールエリア」と呼ばれています。コントロールエリア内には、TC通過時刻の1分前から入り、赤色TC標識の地点に停車することができます。1分以上前に入ってしまうと、ペナルティの対象になってしまうので必ず「1分前を過ぎたら黄色のTC予告入口標識に入る」と覚えてください。

赤色標識地点では、自分の通過予定時刻(TCイン予定時刻)の00秒を過ぎてから、オフィシャルにタイムコントロールカードを提出してください。通過時刻が記載されます。コントロールエリアでは、オフィシャルの許可がある場合を除き、車両の整備作業はできません。(窓ふきのみ許されています)。そのTCでの作業が終わったら、黄色のTC解除の標識までの区間から速やかに退去してください。この区間でボンネットを開けて様子をみたり、タイヤの空気圧を調整するなどの行為を行うと、整備作業とみなされペナルティの対象になりますので注意してください。

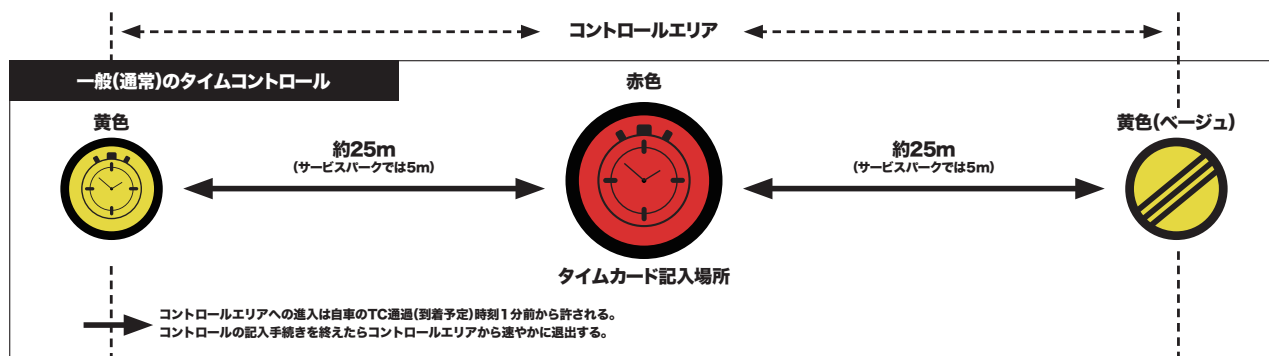
●SSスタート/フィニッシュを含むタイムコントロール

TCの後にSSがある場合も、黄色のTC予告標識の前で1分前まで待機し、1分前になったら進入して自分の通過予定時刻にカードを出す、という流れは同じです。ただし、TCに入るまでに走行準備(ヘルメット、シートベルト等)を済ませておきます。ここで、TC通過時刻に加え、必ず3分後の「SSスタート予定時刻」がオフィシャルによって記入されます。その3分間で50~200m先にあるSSスタートまで進んでください。

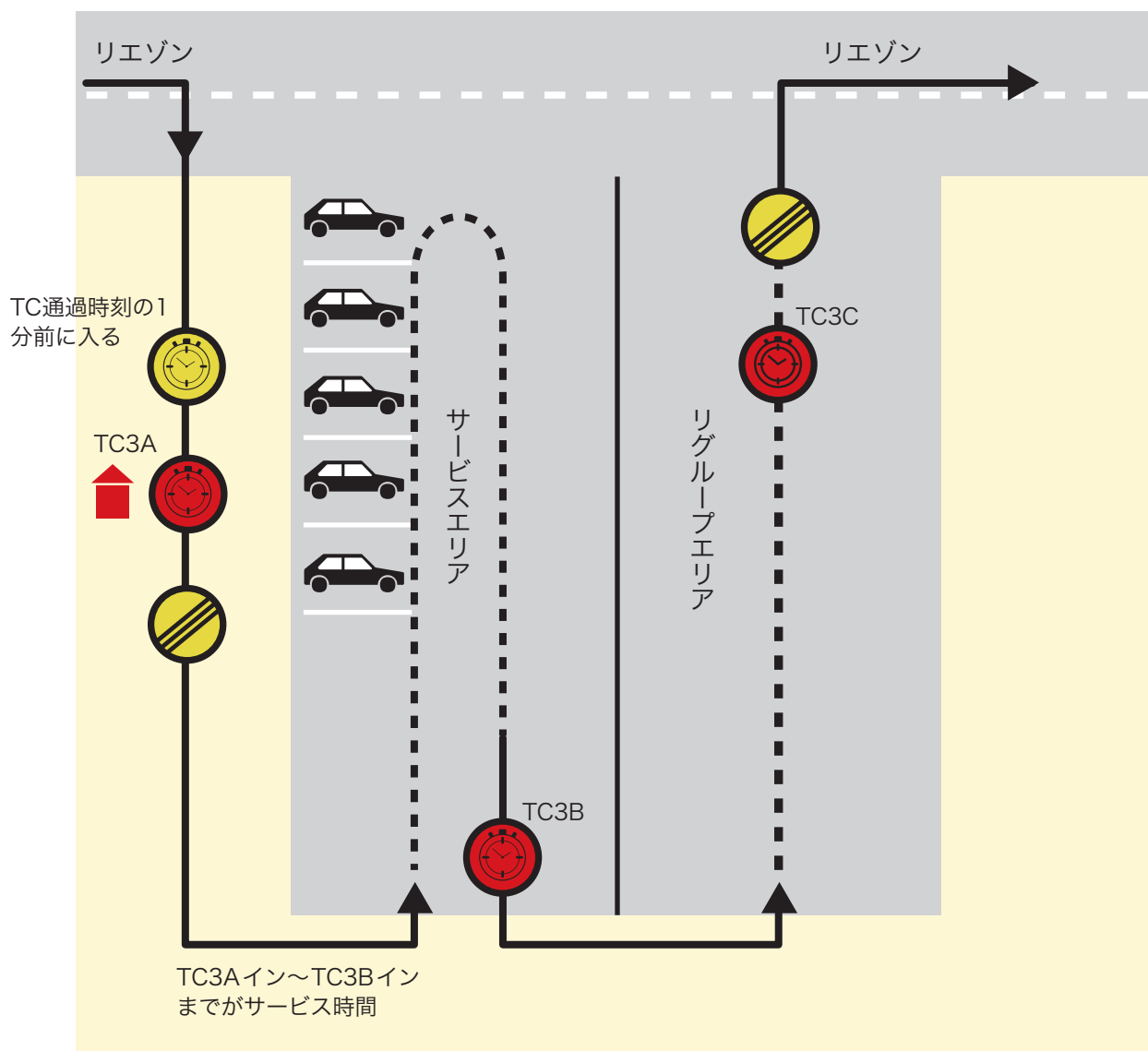
SSスタートでは再びタイムコントロールカードを提出して実際のSSスタート時刻を記入してもらいますが、進行上なにもトラブルがない場合は、TCで書き込まれた「3分後」の時刻がSSのスタート時刻となります。このSSスタートもTCと同じく、スタートを切ってからコントロールエリア終了標識までの間は停止してはいけません。

フィニッシュの場合も、まず黄色いフィニッシュ予告標識があって、その後に赤いSSフィニッシュ標識があります。このフィニッシュ標識は計時ラインの場所なので、ここまでは全速力で走り、その100m~300m先のストップ標識で停止します。このフィニッシュ標識とストップ標識の間もコントロールエリアとなるので停車禁止です。ストップ標識の位置でカードに記録を受けたら、速やかにコントロールエリアからでてください。

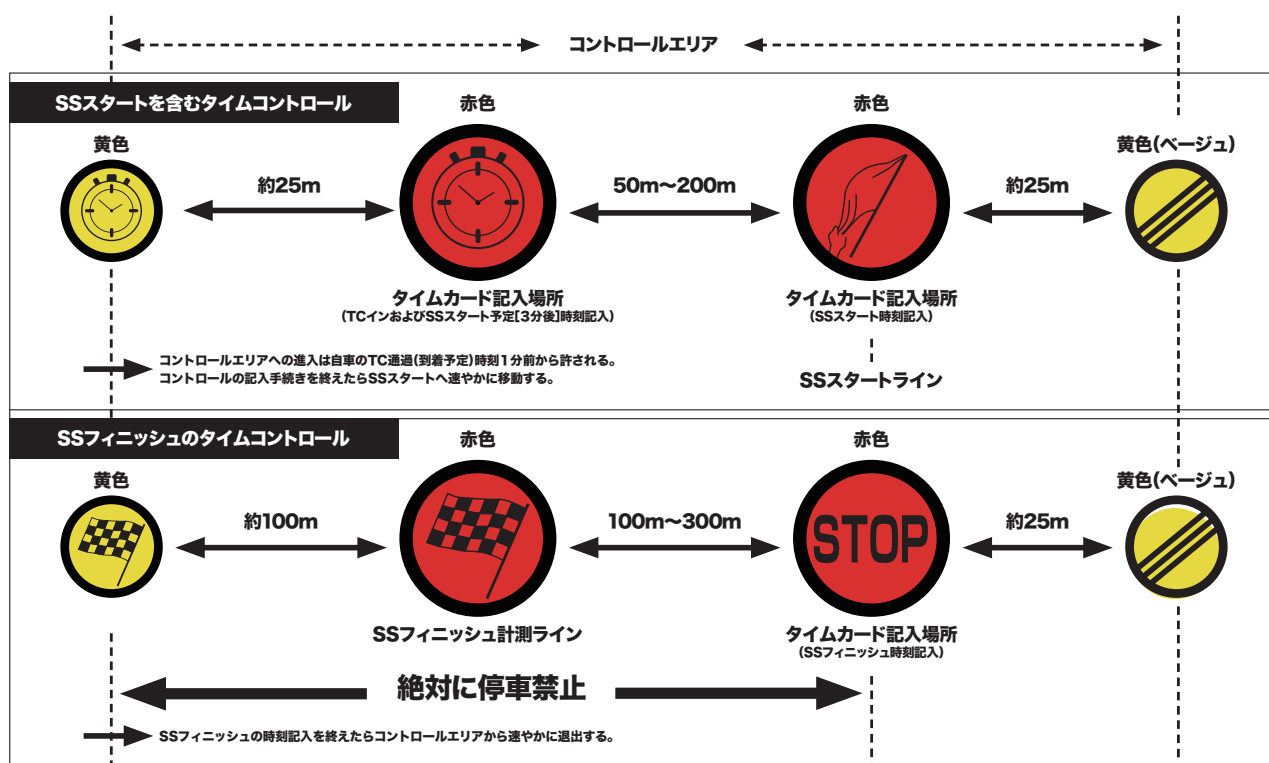
タイムコントロール(TC) 基本編



サービスのTC(例)

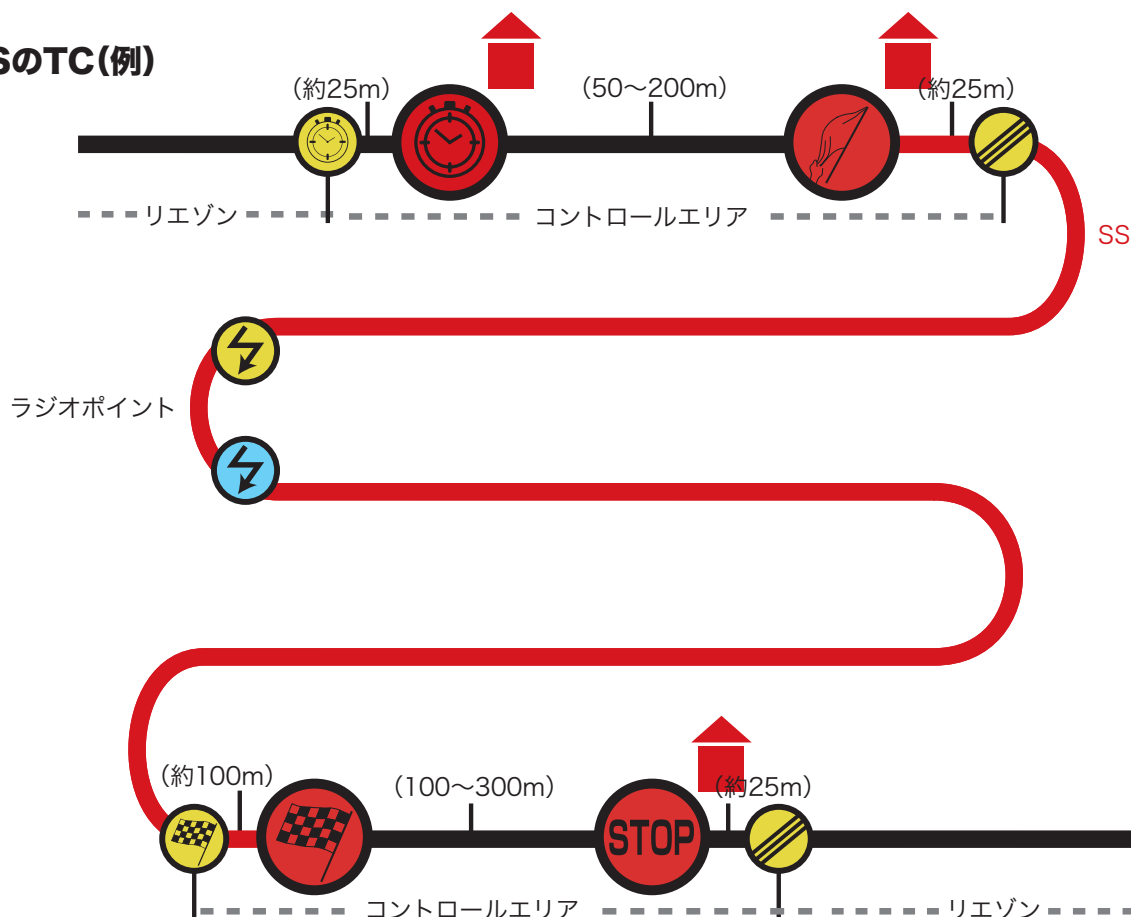


タイムコントロール(TC) SS編



- コントロールエリア内はパルクフェルメとなるので、車両についてはオフィシャルから指示のあった場合を除き、一切の作業を行なってはならない。(SSスタート時の窓拭きなどのみ除く。水などの補給は禁止)
- コントロールエリア内では一連の手続きに必要な時以外、停車したり異常に遅いスピードで走行してはならない。

SSのTC(例)



⑧TC (タイムコントロール) カードの使い方

参加受付の際、ロードブックとともにタイムコントロールカード(TCカード)が交付されます。(TRDラリーチャレンジオリジナル戦の場合)TCカードはラリーの行程に沿ってTCやSSの通過時刻を記録するためのもので、1台に1枚しかありません。TCカードを受け取ったら、自分でゼッケンを記入しておいてください。フィニッシュを除く赤いTC標識のところで必ずオフィシャルに渡し、そのTCの通過時刻あるいはSSのスタート時刻を記入してもらいます。

TCカードは絶対になくさない場所に保管してください。万が一TCカードをなくしてしまうと、失格となってしまいます。

TCカード(例)

TC	
ARRIVAL TIME at TC TC到着時間	Hr(時) Min(分)
DUE TIME (Competitor Use) 到着予定時刻(選手使用)	Hr(時) Min(分)
TARGET TIME 目標時間	Hr(時) Min(分)
ACTUAL START スタート時刻(実際)	
TIME TAKEN 所要時間	

SS	
CAR NUMBER	
FINISH TIME フィニッシュ時刻(実際)	Hr(時) Min(分) Sec(秒) 1/10
ACTUAL START スタート時刻(実際)	SS
TIME TAKEN 所要時間	
Provisional Start Time スタート予定時刻	
Arrival Time at TC TC到着時刻	
STAMP/SIGN 署名	
Page	

⑤これだけは覚えてほしい安全のための知識

どんなに安全に気をつけていても、競技を行う上では様々なアクシデントに見舞われることもあります。そんな時にどう対処すべきかを、あらかじめ覚えておきましょう。

①困った時はまずCROに連絡

実際にラリーに出場していると「こんな時はどうすればいいのか」「こういうケースではどう動けばいいのだろう」といったことは、初心者・入門者に限らず、中級者・ベテランでもよくあります。

そういった場合には、CRO(コンペティター・リレーション・オフィサー)という役務の競技役員に相談することができます。

CROは参加者と主催者と審査委員会の間に立ち、様々な内容を調査し、参加者にアドバイスをしてくれます。TRDラリーチャレンジでは毎戦必ずラリー当日の公式通知でCROの連絡先(携帯電話番号)が公示されていますので、スタート前に必ず連絡先を控えておきましょう。

TRDラリーチャレンジでのCROは、何でも教えてくれる先生のような存在です。例えば、サービスエリアにリグループが設定されている場合に、「このTCにはどうやって入ったらいいんですか?」とか、「このやり方で合っているのでしょうか?」といった基本的なことから、アクシデントが起きた場合にはどうすればいいのかなど、ラリーに関することは何でも答えて助けてくれます。

また、リエゾン区間を走行中に渋滞に巻き込まれてしまい、どうしてもTC通過時刻に間に合わないといった場合にも、あらかじめCROに「こういう理由でこうなりました」ということを連絡しておく、救済処置を行ってくれることもあります。

「困った時にはまずCROに連絡する」ということを覚えておいてください。

②「OK」「SOS」ボードの意味

「OK」「SOS」ボードはトラブルに見舞われた競技車のクルーが状況を後続車に伝えるためのものです。「OK」はメカニカルトラブルなどで車両は止まってしまったが、重篤な状況になく、救助が必要ない状態を示します。「SOS」は重篤なトラブルで救助が必要な場合を示します。コースアウトしてクルーが負傷した場合や車両火災の時はこちらを使います。

OK SOS

救急医療措置が不要な場合もしくは消火が必要な場合は
少なくとも3台の後続車両に明確に提示すること
また他に援助を行おうとしている者(ヘリコプター等)があれば
それらに対しても同様に提示すること

救急医療措置が必要な場合もしくは消火が必要な場合は提示すること

③アクシデントに見舞われたら……

ラリーはSSを速く走ることによって順位を競うモータースポーツです。そのためSS中は自分がコースアウトをしてしまったり、前のクルマがコースアウトをして止められてしまったり、色々なケースのアクシデント・トラブルが考えられます。

車両火災や人命に関わる重大な事故が起きた場合、あるいは競技の進行がスムーズに行うことができないという緊急時にはオフィシャルが救助に向かいますが、トラブルが起きたときの安全確保や緊急時の措置として、参加者として必ず覚えておいていただきたいルールがあります。

まず、SSで競技車両がやむを得ず停車した場合は50m手前の目立つ場所に三角停止板を設置し、後続車に適切な合図を行わなければなりません。車両がコース上にない場合も同様です。そのうえでクルーに怪我や車両火災などがない場合は、後続車両に向けて「OK」マークを提示してください。提示する場合はコース脇もしくは路肩の上に上がるなどして、自分たちの安全確保を最優先して後続に提示するようにしてください。後続車両は1分後には走行しますので、2次災害が起きないように注意が必要です。

万が一、車両火災が起きてしまったり、あるいはドライバーやコ・ドライバーが怪我をしてしまって、救急医療措置が必要もしくは消火が必要な場合は、「SOS」マークを提示します。「SOS」マークは車両の破損や移動できないといった場合に出すものではありませんので注意して下さい。

「SOS」マークを発見した2台目のクルーはすみやかに停車して救助にあたってください。その際、できる限り後ろから来る車両が通過できるように車両を停車します。救助作業が行われている場所に到着した3台目のクルーは、すみやかにその先のラジオポイントまで事故があったという報告に向かう必要があります。それ以降の車両は、緊急車両が通過できるように道の脇に車両を停止させ、救助に向かってください。

車両がかなりのダメージを負っていてクルーが車室内にいると思われる(クルーが確認できず、「SOS」「OK」の提示がない)場合も同様の手順となります。

後続車が通過できる限り競技は続行されます。自分がこれ以上競技を続けられない場合はすべての競技車が通過した後に来るスーパーにリタイア届けを提出します。その後どうしたらよいのかは、オフィシャルと相談してください。

これらの対応は、万一の場合に生死を左右する安全上重要な内容ですので、正しい対応を常に確認しておくことが大切です。

- ▶ すみやかに三角停止板1枚を50m後方の車両が止まっている側に設置する。
- ▶ もう1枚の三角停止板を車両直後に設置する。

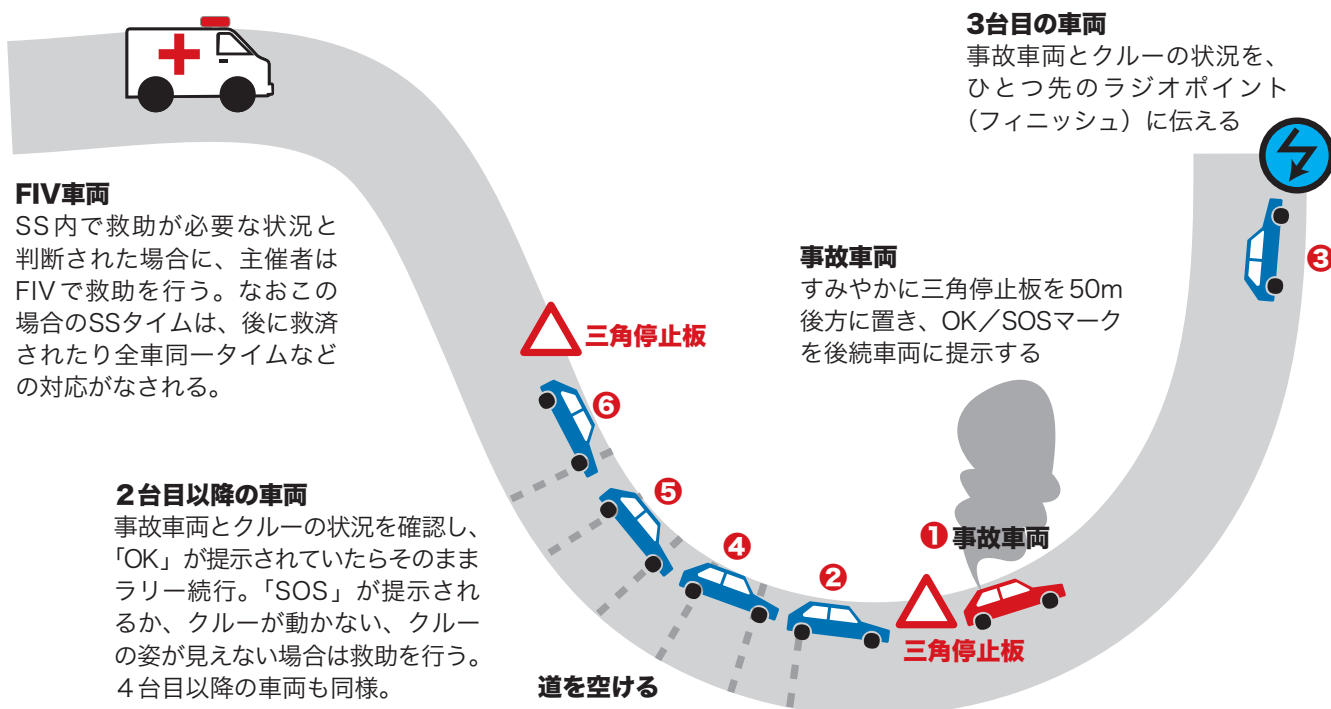
救急医療措置が不要な場合もしくは消火が必要ない場合

- ▶ 停止したクルー：安全な場所から少なくとも3台の後続車両に明確に「OK」マークを提示する
- ▶ 2台目のクルー：安全な速度で通過する
- ▶ クルーが車両から離れる場合は、後続車にはっきりと見える場所に「OK」マークを掲示しておく

**救急医療措置が必要な場合もしくは消火が必要な場合
「OK」「SOS」のどちらの提示もなく車両が
かなりのダメージを負っていてクルーが
車内にいると思われる場合**

- ▶ 停止したクルー：「SOS」マークを提示する
 - ▶ 2 台目のクルー：ただちに停車し、後続車両の停止を促し、救助を行う
 - ▶ 3 台目のクルー：次のラジオポイントまで行き、状況を説明する
 - ▶ 以降の後続車は緊急車両のための車幅をあけて停止し、後方対応等援助を行う
- ※ 1 分後には後続車両が来るので注意してください。

SOS が提示された場合の対処方法



⑥TRDラリーチャレンジに参加するには？

ラリーは実際に参加し、走ってみるのが一番です。
興味を持ったならTRDラリーチャレンジに参加してみましょう。

①TRDラリーチャレンジの申込方法

各参加者は、TRDラリーチャレンジ公式ホームページからウェブ申し込みが可能です。特別規則書・参加申込書は公式ホームページからダウンロードできます。お申し込みの際には、必ず参加希望ラウンドの特別規則書や参加申込書類に目を通しておいください。

郵送などでの申し込みをご希望の場合は、下記TRDラリーチャレンジ事務局までご連絡下さい。

②保険の加入

TRDラリーチャレンジに参加する際には、TRDラリーチャレンジに有効な任意保険または共済等の加入を義務づけています。ラリーに有効な任意保険に加入済の方は、参加申し込みの際に保険証書または、領収証のコピーを同封すればOKです。ラリーに有効な任意保険に未加入の方は、参加申込前にTRDラリーチャレンジ事務局に問い合わせて、保険費用を確認しましょう。保険加入については各ラウンド申込締切日の1週間前までに行ってください。

また、JMRCラリー共済を使用する場合、使用の可否を事前に事務局までお問い合わせ下さい。

TRDラリーチャレンジ公式ホームページ
<http://trdrallychallenge.jp/>

申し込み書請求先・申し込み先

TRDラリーチャレンジ事務局

住所 〒355-0225 埼玉県比企郡嵐山町鎌形1607-7(株式会社 プロクルーズ内)

TEL 0493-61-1185 FAX 0493-61-1186

受付時間 10:00～18:30 (月・祝日定休日)

E-mail info@procrews.co.jp

URL <http://procrews.co.jp/>

付録 ラリー関連用語

用語	説明
レッキ（レキ） Reconnaissance	SSコースの事前試走のこと。TRDラリーチャレンジでは早朝に1回のみだが、WRCや全日本ラリーでは、各2回まで走行可能。走行時には道路交通法の速度制限を守って走行する必要がある。
リエゾン Liaison	SS区間の間の一般道を走行する移動区間。ロードセクションとも呼ばれる。道路交通法の速度制限や標識などを守って走行する必要がある。
スペシャルステージ（SS） Special Stage	走行タイムを計測する競技区間。日本では道路占有許可を取得し、封鎖されたなかで走行する。
ペースノート Pace note	SSのコース状況などを記録したノート。レッキでドライバーが読み上げたものをコ・ドライバーが記録し、本番ではコ・ドライバーがペースノートを読みドライバーに伝える。コーナーの曲率の基準、記号、読み方など、競技者によって様々な表記方法がある。
タイムコントロール（TC） Time Control	ラリー車両の通過を確認し、通過時間の記録を受ける場所。赤い時計の標識で表され、タイムカードを提出して自分の通過時刻をオフィシャルに記録してもらう。
サービスパーク Service Park	ラリー中に車両整備などを行う場所。
パルクフェルメ Parc Ferme	車両保管所のこと。ここでの車両整備は一切の作業が禁止される。ラリーではあらかじめ決められた車両保管場所の他に、TCのコントロールエリアに進入してから退出するまでの間、SSのスターティングエリアまたはリグループエリアに進入してから退出するまでの間もすべて車両保管状態となり、一切の作業が禁じられる。
ヘッドクォーター（HQ） Head Quarter	ラリーの運営本部。
アイテナリー Itinerary	ラリーの進行や時間を明記したスケジュール。
緊急車両（FIV）	重大な事故や負傷者が出た際に出動する緊急車両。万が一の時のために、救急救命対応をするための装備などが備え付けられている。
コントロールエリア Control Area	TCの前に置かれた黄色のTC予告標識から、次に置かれた黄色の解除標識までのエリア。このエリア内での車両整備は禁止されており、行くとペナルティとなる。TC予告標識にはTCイン予定時刻の1分前を過ぎた時点から通過可能となる。



Rally challenge

2015年6月1日 第2版発行
トヨタテクノクラフト株式会社